

## 島本町教育委員会 会議録（令和3年第11回 定例会）

日時	令和3年10月19日（火） 午前9時30分～午前10時30分
場所	島本町役場3階 委員会室
出席者	中村りか教育長、高岡理恵教育委員、森田美佐教育委員、西尾一実教育委員 丸野亨教育委員
委員及び 事務局職員	（教育こども部）岡本泰三部長、安藤鎌吾次長兼生涯学習課長兼体育館長 （教育総務課）廣井信弥課長、上月健史参事 （教育推進課）山田敏博課長、佐々木淳平参事 （子育て支援課）南田篤志課長 （生涯学習課）
欠席者	なし
委員	
議題及び 議事の趣旨	第16号報告 事務局職員人事の臨時代理について 第17号報告 令和3年度「全国学力・学習状況調査結果」の公表について 第18号報告 令和3年度小学生すくすくウォッチ（5・6年生）の結果について
議決事項	
教育長の 報告の要旨	別紙議事録のとおり
その他	傍聴者1名

教育長

本日、出席者は5名です。

定数を満たしておりますので、令和3年第11回教育委員会定例会を開会いたします。

お諮りいたします。会議録署名委員は、島本町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、森田教育委員に決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、会議録署名委員は、森田教育委員に決定いたしました。よろしくお願いいたします。

それでは、第16号報告「事務局職員人事の臨時代理について」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

教育総務課長

それでは、第16号報告「事務局職員人事の臨時代理について」、御説明申し上げます。

本案件は、令和3年10月1日付けで行われた事務局職員に係る人事発令に関するものであり、教育長に対する事務委任規則第1条第1項第8号に掲げる事項、すなわち、「事務局職員及び学校その他の教育機関の職員（府費負担教職員を除く。）の任免を行うこと。」に該当するため、手続上、原則として、発令の内示前にその人事異動案について教育委員会の議決を経ておく必要があったものでございます。しかしながら、今回の人事発令につきましては、異動案が示されてから内示までの間に教育委員会議を開く時間的余裕がなかったため、緊急やむを得ないものとして、教育長に対する事務委任規則第3条第1項前段の規定に基づき、教育委員会による議決に当たる部分を教育長が決裁手続により臨時に代理しましたので、同じく教育長に対する事務委任規則第3条第1項後段の規定により、本日の教育委員会議において、臨時代理したことを報告するものでございます。

それでは、今回臨時代理した事務の内容について御説明します。

資料の3ページをお開きください。

令和3年10月1日付け発令予定の人事異動計画のうち、教育委員会事務局に関する部分でございます。

始めに、部内異動が2名でございます。

安藤教育こども部次長を生涯学習課長及び体育館長兼務とし、奥野生涯学習課長兼体育館長を生涯学習課主幹とするものでございます。

次に、新規採用が1名でございます。

新規採用職員の梅原を教育総務課に配属するものでございます。

以上、簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。

よろしく御審議いただき、御承認賜りますようお願い申し上げます。

教育長

ただいまの報告について、御質問、御意見等ございませんか。

教育委員

新規採用についてですが、部署変更なのか新規の採用なのか教えていただいてよろしいでしょうか。

教育総務課長

この度、新規採用させていただいた者については、全く初めての採用でございます。

教育長

ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、報告内容のとおり承認するものといたします。

それでは、第17号報告「令和3年度「全国学力・学習状況調査結果」の公表について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

教育推進課参事

それでは、第17号報告「令和3年度「全国学力・学習状況調査結果」の公表について」、御説明申し上げます。

資料7ページは、結果公表の資料としてまとめたものでございます。それでは9ページの資料「学力・学習状況調査の結果概要」を御覧ください。

学力に係る調査は、小学校は国語、算数、中学校は国語、数学のそれぞれ2教科について実施されました。平成30年度までは、国語、算数・数学の2教科では、「知識」に関する問題(A調査)と「活用」に関する問題(B調査)で実施されていましたが、平成31年度から1つの教科としてそれぞれ実施されました。昨年度(令和2年度)におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、調査の実施は中止となりました。

今回の調査において、小学校の平均正答率は、国語では、全国平均を0.3ポイント上回りました。算数でも、3.8ポイント全国平均

を上回る結果となりました。中学校の平均正答率については、国語では、全国平均を3.4ポイント上回りました。数学でも4.8ポイント全国平均を上回る結果となりました。

無解答率につきましては、中学校では、全ての教科区分で全国平均と比較して良い結果となりました。一方、小学校では、国語の教科区分においてのみ、全国平均を下回りました。

次に、同じ資料の(2)学習状況調査結果の概要の右枠中段にある「他者との自分の考えを深めたり広げたりする授業づくり」を御覧ください。他者との自分の考えを深めたり、広げたりする授業づくりの項目で、「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。」という質問について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた児童生徒の割合を記載しております。小学校、中学校ごとの全国比を記載しておりますが、小中学校とも全国平均を上回り、特に中学校において、話し合う活動が増え、ペア学習やグループ学習などにおいて、自分の考えを深めようとしていることがわかります。これは、主体的・対話的で深い学びの授業を進めている中で、授業改善が進んでいるものとしてとらえております。

次に、家庭学習の意識につきましては、右枠内下段を御覧ください。

①「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」、②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の2つの質問項目では、小学校では、①の質問項目について、全国平均を下回り、計画を立てて勉強を行うことが課題であり、自ら計画を立てて学習を行うことにつながるよう、主体的に学びに向かう力の育成が必要です。②の質問項目については、学校授業以外での勉強をしている割合が全国より高い結果となっています。中学校では、①の「家で計画を立てて勉強していますか」の項目では、昨年度よりプラス9.3ポイント全国平均を上回る結果となりました。

家庭学習については、特に中学校において、生徒の学習意欲を高め、学習課題と学習形態の改善が、主体的に学びに向かう力の育成につな

がったと捉えております。今後、小学校も含め、補充学習や自主学習など様々な学習の場の設定や、「自ら学ぶ力」を育成していきたいと考えております。

以上説明させていただいたことを文章化し、まとめました資料1枚目を、地域・保護者への説明責任を果たすため、ホームページで、更に簡略化したものを広報にて公開したく思います。

以上、簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。

教育長

ただいまの報告について、御質問、御意見等ございませんか。

教育委員

結果を見せていただくと、平均より上であったり、前年度より上がっている地域が目立っておりまして、いつも御尽力していただいている先生方のおかげだなというふうに思います。

9 ページ右側の学習状況調査結果の概要についてなんですけれども、こちらの項目以外にほかにも質問がありましたら、その中で全国の平均を下回ったり、上回ったりというものはなかったのかどうかを教えてくださいいただければと思います。

教育推進課参事

他の項目での質問、アンケート事項での全国平均を上回ったり、下回ったりした顕著なところがございますが、「学校が楽しい」というところにつきまして、全国平均を上回っております。学校によって差はあるんですけれども、新聞等で、コロナで行事等が減って学校が楽しくない児童が増えている、ということが報道されましたけれども、本町におきましては、そのような傾向というのは全体としてはございません。もう1点、低く出た傾向としましては、主体的に学ぶという姿勢です。例えば、授業の中で学んだことをどう社会に役立てて行くのか、という意識が低いという傾向が出ております。学んだことをどのように実社会実生活で活用していくのか、というのが本来の学力でございますので、今後、そこにつなげていきたいと考えております。

教育委員

「家庭学習の意識について」というところで、自分で計画を立てて勉強するという点が、データとしては少し低く出てるかと思うんですけれども、自ら学習するという姿勢をどういうふうに分析されているのか、分析したらいいのか、ということをお聞きしたいです。

教育推進課参事

本来、学習は、受け身ではなくて自分から学んでいく、いわゆる教

えることから学ぶことに転換していきたいと考えております。そういった中で、授業の中で先生が一方的に知識の方を教え、それを覚えてテストで回答していく、という形ではなくて、授業の中で自分から問いを見つけて自分から答えを見つけていく、みんなで納得するような正解のない答えについての授業が求められていますので、授業を通じて学び方を子どもたちへ教えていく観点が必要かと思えます。

#### 教育委員

平成28年の小学校6年生が、平成31年のデータを見ると、かなり全国に比べてプラスが伸びていると思うんですね。平成28年の国語が0.6ポイント上回っていて、算数では1.4ポイント、それが平成31年は国語で7.2ポイント、数学で6.2ポイントとなっています。この間に大きく子どもたちへの教育について改善がなされて、成果が出ているのかなと思っています。平成30年の子どもが令和3年に全国のプラス率をキープしているという感じなのかなと思っています。ということは、平成28年から平成31年の間に改善されたその教育が、高いレベルで維持されているということに当たるのかなと思うんですね。その改善が、どういうところにポイントがあるのかということと、それが今まで継続されていることについて、現場の先生方が自覚的に意識してやられているのか、無意識的にされているのか、という辺りが秘訣になってまして、自覚的にされているのであれば、おそらくこの後維持していきやすいと思うんですけれども、なぜか分からないけど上がったままということであれば、次マイナスが出たときに対策が打ちにくいのかなと思いますので、その辺りの分析がもしできるのであれば知りたいなと思います。

#### 教育推進課参事

委員のおっしゃるとおり、平成28年度から、当時の新学習指導要領に向けて主体的、対話的で深い学びづくりをしていこうということで、スクールエンパワーメント推進事業という大阪府の事業がございまして、町内で旗艦校を小学校と中学校に1校ずつ設置して、それを推進校にして、その事業改善を町内の学校に波及していく、という取組を続けております。その5年間でのひとつの形として、授業の構造化と申し上げるんですけれども、しっかりと子どもたちが何をその時間に学ぶのかという目当てを持って、その目当てに対して授業を展開

して最後それを振り返るという、そういった構造化について町内統一して進めておるところでございます。一定その形で進んでいきますので、先生が変わろうが、一定キープはできるかなと思っております。

教育長

S E (※スクールエンパワメント) をいただいております、加配を頂くというのはとても大きかったと思うんですね。その加配は、学校全体を見て、主にS E配置校は言語能力の育成に力を置いていたので、各学年をこまめに回って、学年会にも参加して授業を作っていく、例えば、コロナ禍で対話ができない時期もあったんですが、その時どうしたら対話できるのか、ということで、ある学校などは、1人1枚小さいホワイトボードを持って書く、という手段で対話を行っております。それが、引っ込み思案のお子さんの表現の手段となってニーズがあったんですが、教育委員会の方も、意識的に良い取組は町全体に広めようという研修もしてまして、そのこともプラスになったのかなと思います。

教育委員

家庭学習の意識なんですけれども、小学生の質問に対して、自分で計画を立てて勉強しているというのがマイナス7.4、塾や家庭教師を含めると5パーセント増で1.5のプラスとなっています。今は塾で勉強するというのも一つの教育として捉えられており、子どもたちが夜遅くまで塾で勉強している光景も当たり前のように見慣れてしまっているんですけれども、その辺りを教育委員会や学校現場の先生はどういうふうに捉えて、現場教育に生かしておられるのか教えていただきたいと思います。

教育推進課参事

委員のおっしゃるとおり、塾の入室率が非常に高い傾向にあると思います。学校の方がある程度つかんでいるところをみても、半数以上の子が通っているという現状がございますので、そこがベースになっているのは確かにございますが、あくまでも塾といいますのは、テストの点を取ることが大きな目的となってくると思いますので、そこではなくて、学校では一つの答えだけじゃなくて自分がどういう考えを持つのかというような、本来の学びというところに重きを置いて、もっと学びたい、もっとほかのことを知りたい、もっと新たに話したい、というような児童・生徒を作っていきたいと考えております。

教育長

自分のこととして、自分の生活と関わるものとして、問いを持ってない、そこが課題かと思っています。学校教育は、答えを知っている大人が質問して、それを答える特殊な形なので、知らず知らずに先生の顔を見て正解を求めてしまうような形になるんですが、就学前の子どもたちにそんなことはないですよ。それが、入学すると同時に学校現場のシステムの中で見えない縛りがあるので、そこをなんとかできないかなと思いますし、自分事として人から与えられたものを事務的に考えるのではなくて、自分事の問いを持てるような子どもたちに小さい間から育ったらいいなと思います。

教育委員

3点ございます。まず1点目、A区分、B区分の内容について、今回は何を統合されたのかというのを聞き逃しましたのでお願いします。2点目が試験問題の得点なんですが、試験問題のレベルはずっと変わらずにあるものなのか、それとも見えない学力を問う問題が入り込んでいるのか、問題によって評価の見方が違ってくるものかだと思いますので、その問題がどうなのかを教えてくださいたいです。3点目ですが、7ページ、8ページを広報で公開するというをおっしゃられたと思います。ということは、9ページのグラフそのものは載せないのか。もし載せるのであれば、この真ん中の大きな全国比のグラフが少々見にくいような気がしますので、もう少しグラフの読み方みたいなものを下に入れながら広報するのかということと、私がすごく大切だと思ってた「他者との自分の考えを深めたり広げたりする」の項目がすごくポイントが高いので、ここに下線を引いたり、もう少し島本町の方々にアピールできるような広報を出してもいいような気が致しました。

教育推進課参事

1点目の御質問のA区分とB区分の違いなんですけれども、A区分は知識です。B区分につきましては、それを活用するという区分になっております。国語でしたら、国語の知識と活用問題に分けていたんですけれども、それが一緒になったというイメージです。それが平成31年度からのテストになります。2点目のレベルについてなんですけれども、全国学力実力調査は全国で標準の実力テストと言われてますので、毎年そのレベルが変わるというのではなくて、一定の水準で

作られているということになります。確かに、企画するときには平成30年度と31年度、A区分とB区分が統合されましたので、若干影響はあるかと思われませんが、本町につきましては、大きな変化はなかったというふうに捉えております。3点目の公表についての工夫をもう少しということ、確におっしゃるとおり、本来この学力調査の目的というところは、授業改善であったり、今後保護者の方に説明責任を果たすということ、より分かりやすく本町の強みやいいところも含めて、工夫をしてきたいと思っております。ただ、2枚目のグラフにつきましては、掲載予定ではありません。

教育長

学力調査で弱いなと思うところは、AかBかどちらか選択し、なぜAを選んだのか、Bを選んだのか自分の考えを書きなさい、というところが書けなかった、というように、自分の考えの意見を持つというところが本町の子どもたちは弱いのかなと思います。弱みの部分の項目として分析するとそういうことなのかなと思っております。見えない学力に関しては、後ほど報告があると思います。

ほかにございませつか。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、報告内容のとおり承認するものといたします。

それでは、第18号報告「令和3年度小学生すくすくウォッチ(5・6年生)の結果について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

教育推進課参事

それでは、第18号報告「令和3年度小学生すくすくウォッチ(5・6年生)の結果について」、御説明申し上げます。

それでは、令和3年度すくすくウォッチ結果概要を御覧ください。

今年度より、大阪府の小学校5年生及び6年生を対象に「すくすくウォッチ」が実施されました。「すくすくウォッチ」は、小学生5年生において、国語、算数、理科の3教科について実施されました。国語で4ポイント、算数で8ポイント、理科で3ポイント大阪府平均を上回る結果となりました。教科横断的問題「わくわく問題」においては、小学校5年生と6年生で実施され、5年生、6年生ともに6ポイント大阪府平均を上回る結果となりました。

次に、同じ資料の裏面にある児童アンケート結果について御覧ください。アンケート番号<16番>の「人と対立しても、相手の考えや気持ちを理解しようと努力する」項目において、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた児童の割合を記載しており、肯定的回答が、大阪府平均より下回る傾向にあります。また、アンケート番号<54番>の「学級会の話し合いでは、違う意見も認め合っている」項目においての肯定的回答結果においても、大阪府平均を下回る結果となりました。このことから、相手意識を持つことや違いを認め合うことに重点を置き、日頃の授業をはじめ、主体的に考える場を多く設定する等、学習活動の改善を図ってまいります。一方で、アンケート<58番>の「その時間に学んだことについて、振り返りをしている」項目で、肯定的回答が5年生で7.6ポイント、6年生で12.1ポイント大阪府平均を上回る結果となっております。また、アンケート<62番>の「自分の考えをノート等書いている」項目でも、肯定的回答が5年生で4.7ポイント、6年生で3.9ポイント大阪府平均を上回る結果となりました。これは、各学校において、児童の「学び方」について、その時間の授業における「めあて」を明確にし、そこから自分の考えを持って友達と交流し、再度、個人で振り返るといった授業の構造化を推進してきた結果であると分析しております。

「すくすくウォッチ」の実施目的として、実施した児童全員に個人の結果を分析した「すくすくウォッチ（個人票）」を返却し、児童が自らの強みや弱み等を知り、強みを伸ばすことや課題を克服すること等、目標に向かって学習等に取り組めるようにすることにあります。各学校において、保護者とも連携しながら一人一人の子どもの指導・支援に生かしていきます。また、今後の方策として、習得知識よりも深い概念知識を得られるよう、単純な思考場面ではなく、日常生活などに関連した場面において思考力が発揮できるよう活用場面を設定していく必要があると考えます。

以上、簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。

教育長  
教育委員

ただいまの報告について、御質問、御意見等ございませんか。

「すくすくウォッチ」というのを初めて理解するのですが、これは

本年度からの取組なんでしょうか。どちらかという、先ほどは学力でリテラシーを図る、これはコンフィデンシーを図るものなのかなと思ったのですが、これから毎年こういう形で、両輪で進めていかれる計画なのか、全国を取組なのか、教えてください。

教育推進課参事

「すくすくウォッチ」は、大阪府のテストでございます。始めた経緯といいますのは、今まで学力調査というものが小学校6年生と中学校3年生という段階でありましたので、その間を平面的に見ていくということで、小学校6年生の前にも5年生で調査をする必要があるんじゃないかということが目的で始まったものでございます。中身につきましては、リテラシーを含め活用するところに重きを置いていますので、全国学力実力調査と「すくすくウォッチ」は連動して見ていくという形を今後も取っていくと思います。

教育委員

「すくすくウォッチ」は、この資料で初めて知ったところで、調べさせていただいて、問題を見ているとすごく工夫されて練られた問題だなと思っています。一見、資料は社会科の資料のように見えるんだけど、その読み取りは算数の力を使っていたりだとか、その話し合いの中身をどう問うのかというところで、国語の力が使われていたりだとか。私は、小学校で問題を自作していたんですけども、どうしても教科の評価を出すために問題を作るので、教科の枠の中でしか問題を作らないという発想に無意識になっていたんです。それが、教科横断的に問題が作られており、確かに、子どもの中ではこんな区別があるわけではなくて、常に子どもの中ではいろんなことを総合的に使いながら日常の生活問題に当たっているわけなので、非常にいい取組が始まったんだなと思って、大袈裟ですけど興奮していたというところです。その結果として、島本町では大阪府の平均よりも高い数値が出てきているということにして、先ほどお聞きした島本町の教育の精度がここにも表れているんだなと拝見させていただいております。全国学力実力調査と比較して見てみると、先ほど全国の調査の中で、資料9ページの右側「他者との自分の考えを深めたり広めたりする社会作り」においてプラスで出てきているんですね。今回の「すくすくウォッチ」のアンケートの中で、14ページなんですけれども、<15

番><16番>の辺りや<49番><54番><56番>の辺りの「他者との話し合いの中で考え方の深まりを進めていく」という辺りでいつも低い値が出てきているということなんです。ここが全国学力実力調査の中では非常に高く出ているのに、今回の「すくすくウォッチ」の中では低く出ているという辺りが理解できなくて、比較対象が大阪府との比較、全国との比較なのでこう出ているのか、あるいは何らかのアンケートの項目の子どもの捉えによってこう出ているのか、その辺りが理解できなかったので、今もしお考えがあるのであればお聞きしたいと思います。

教育推進課参事

「すくすくウォッチ」につきましては、一旦結果の概要ということにつきまして、今後詳しい分析を大阪府と一緒に進めていき、その報告をさせていただこうと思っております。その上で、本町で課題としておりますのが、確かに、子どもたちの中では、授業の中で学び合っている、話し合って対話しているという意識はあるんですけども、それが例えば自分の答えを説明する、それを聞く、それをもって対話、というふうに子どもが捉えているんじゃないかと。それが今回授業ではなくて学級会が接点なんですね。学級会というのは、自分たちでものを進めていく、従来あることではなくて、自分たちから何かを作り出していくという時に、やはりその力が弱いということですので、全国学力実力調査の対話のところで、子どもたちの意識が高まったけれども、対話をするだけではなくて、それが深い話につながっていくのかどうかという現象と、それが自分たちの生きて働く力になっていくのが本当に必要なことですので、ここは大阪府平均とか全国平均ということにはかかわらず、本町としては本当の意味の力ということではまだまだついていないと捉えております。

教育委員

私も、教員をしている時にアンケートを取って子どもから話を聞くと、「あ、そういうことか。」と思ったことがありました。アンケートの土台のところ弱かった、という部分の可能性もなくはないので、その辺りのことも分析していただけたら有り難いと思います。

教育長

今の数値の矛盾というのは、引っ掛かったところです。「すくすくウォッチ」の設問で「その人がどうしてそのように考えているのか分か

ろうとする」とありますが、授業形態としては、話し合いの時間は意識的に持たれていると思うんですが、人の話を聞いて本当の意味を分かろうとするのは難しいです。私自身も、自分が何しゃべろうかなと考えながら聞いていたりするときもあるので。本当の意味で対話というのは、なかなか難しいということと、話し合うに足るテーマを与えているのかどうか、別に話したくもないけど話し合いなさいと言われるから話している、というような状況がもしかしたらあるかもしれないので、話し合いに足るテーマを子どもたちに、というのは意識しておかないといけないのかなと思います。そのためには、自分の思いや考えをしっかりと一人で考える時間を話し合いの前に確保しないといけないと思います。あと、問題については、府教育庁のトップの方が訪問に来てくださった時に、大変苦勞されて、ものすごく時間をかけて教科横断型の問題を作られたとおっしゃっていましたので、そんなふうに評価していただいたことをお伝えしたいと思います。

ほかにございませつか。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、報告内容のとおり承認するものといたします。

それでは、以上をもちまして、令和3年第11回教育委員会定例会を閉会いたします。